いわてOT広報誌

不来方

No.38

2026年
8月31日発行



2 巻頭言「会長就任のご挨拶」
3 県士会トピックス① 総会レポート
3 2026・2027年度 岩手県作業療法士会役員紹介
4 県士会トピックス② 第38回岩手県作業療法学会のご案内／学会長挨拶
5 県士会トピックス③ 作業療法フェスタ2026レポート
6 わたしの現場の工夫～明日から使える実践知～
6 My Favorite 3 ～わたしの3つの愛用品～
7 2026年度 期待の新人
＊袰野 和奏さん
＊熊谷 菜々子さん
7 広報局からのお知らせ
8 いわてOT図鑑

一般社団法人
岩手県作業療法士会
Iwate Association of Occupational Therapists

巻頭言

会長就任のご挨拶



このたび、わたくし大久保は、岩手県作業療法士会会長を拝命いたしました。会長就任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

このような大役を担うこととなり、身の引き締まる思いです。これまで本会を支えてこられた歴代会長をはじめ、役員の皆さん、そして日々それぞれの現場で尽力されている会員の皆さんに、心より感謝申し上げます。

私たち作業療法士を取り巻く環境は、医療・保健・介護・福祉・独立事業などの分野における制度改正や変遷など、大きな変化の中にあります。現場では、多様なニーズと地域包括ケアの進展に伴う活動と参加支援が求められています。

このような状況において、「その人らしく生(活)きる力」を支援する作業療法士の専門性と価値を社会へ発信すべき好機であると同時に、組織力が一層求められています。

わたくし自身が士会活動を通して重要と考える3つの方針を掲げます。

1.臨床力の向上:根拠に基づく実践と生涯学修を支援する体制

2.ネットワークづくり:世代や分野を越えて互いに成長できる組織づくり

3.作業療法の魅力と価値を発信する:あらゆる生活の場で、対象者の「生(活)きる力」を支える作業療法の魅力と価値を発信し、社会的な認知度を上げる。

これらを実現するためには、会員相互のつながりが何より大切です。会員同士が気軽につながり、支え合う士会づくりを一緒に創りましょう!

重ねますが、作業療法は「その人らしく生(活)きる力」を支援する専門職です。その使命は、制度や時代が変わっても揺らぐことはありません。そのことを社会に伝え、広げていくためには、一人ひとりの力と、組織としての力が必要です。

引き続き、これからの歩みを共に進めていただけますよう、心よりお願いいたします。

最後に、これまで築かれてきた本会の歴史と信頼を大切にしながら、声を掛け合い、新しい時代にふさわしい挑戦をしましょう! 今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

2026年8月

一般社団法人 岩手県作業療法士会 会長
大久保 訓
(いわてリハビリテーションセンター／雫石町)

県士会トピックス❶

総会レポート

日時:2026年6月6日(土)　会場:岩手県自治会館 第1会議室
総会出席者:66名　委任状:473名



2026年度は、「作業療法士の職業倫理」に関する研修会から始まりました。

日本作業療法士協会が各都道府県作業療法士会を対象に倫理対応体制に関する現状調査を実施したところ、近年、倫理案件が発生しているとの報告が寄せられています。主な相談・被害内容としては、①実習指導者から学生へのハラスメント、②職場におけるハラスメント、③SNSに関する倫理問題、④業務に関する倫理問題などが挙げられています。



日本作業療法士協会では会員の処分規定が定められており、岩手県作業療法士会においても、本年度より倫理に関する取り組みが計画されています。講師を務められた藤原瀬津雄会長からは、「職場で問題を解決する仕組みがあるかどうかを確認し、なければ早急に整備すること」「職場での対応が難しい場合には、作業療法士会としての対応策を検討しておく必要がある」とのお話がありました。

医療職は、人の生命や健康という最も尊いものを直接扱う専門職であり、患者・利用者と医療従事者との間には、情報量や立場の違いによる避けることのできない力の不均衡が存在します。今回の研修は、倫理意識を高め、自らの専門職としての在り方を改めて見つめ直す貴重な機会となりました。



研修会終了後には定時総会が開催され、各局・各委員会より2025年度事業報告・決算報告ならびに2026年度事業計画・予算案が示されました。これまでの活動内容や事業費、今後の計画について各担当者から丁寧な説明が行われ、参加者との活発な意見交換も見られました。また、2026・2027年度役員選出では、理事立候補者11名が紹介され、承認されました。

さらに、長年にわたり県士会の発展に尽力された藤原瀬津雄会長、伊藤和正広報局長、村上満理事、細川康紀監事、松田均監事の5名が役員を退任されることが報告されました。大久保訓副会長、高梨信之副会長・学術教育局長から花束と感謝の言葉が贈られ、「これまで築き上げてきたものをしっかりと引き継ぎ、今後もより一層努力していきたい」との思いが述べられました。





終盤には、今年開催される第38回岩手県作業療法学会ならびに令和9年度開催予定の第37回東北作業療法学会について、千田恵介胆江支部長、高梨信之副会長・学術教育局長より案内があり、多くの演題応募と大会運営への協力が呼びかけられました。

総会終了後には新人会員歓迎会が開催され、51名(うち新入会員32名)が参加しました。新人会員とベテラン会員が交流を深める機会となり、自己紹介や施設紹介に加え、ベテラン会員が作業療法の魅力について語る場面もありました。「身体と心の両面から支援できること」「社会復帰に貢献できること」「自分らしさを発揮できること」「幅広い分野で活躍できること」など、それぞれの経験に基づいた思いが語られ、新人会員にとっても貴重な時間となったことでしょう。





臨床経験を積み重ねる中で、「自分にとっての作業療法とは何か」を考え続けながら成長していただきたいと思います。新人会員の皆さまの今後ますますのご活躍を期待しています。

報告者　広報局 情報処理部　佐藤 立

2026・2027年度 岩手県作業療法士会役員紹介

新たな体制のもと、会員の皆さまとともに、より魅力ある士会づくりを目指して活動してまいります。それぞれの専門性や経験を生かしながら、会員相互のつながりを大切にし、作業療法の発展と社会への価値発信に努めてまいります。

役員一同、どうぞよろしくお願いいたします。

代表理事	大久保 訓(公共財団法人 いわてリハビリテーションセンター)	**理事**	今宮 正彦(岩手県立千厩病院)
理事(副会長・学術教育局長)	高梨 信之(岩手医科大学 衛生学公衆衛生学講座)	**理事**	佐々木 圭秀(自宅会員)
理事(副会長・地域局長)	小笠原 康浩(介護老人保健施設 ユートピア白滝)	**理事**	高橋 正基(岩手リハビリテーション学院)
理事(常務理事・事務局長)	吉田 雄吾(南昌病院)	**理事**	千田 恵介(老人保健施設　ハイム・ベルク)
理事(常務理事・事業局長)	小林 一樹(もりおか小林整体院)	**理事**	細越 将太(岩手県立一戸病院)
理事(常務理事・広報局長)	菊池 孝(遠野市社会福祉協議会)	**監事**	土井 隆稔(盛岡つなぎ温泉病院)
		監事	二階堂 静(介護老人保健施設たいわ)

県士会トピックス❷

第38回 岩手県作業療法学会のご案内／学会長挨拶

会期:2026年10月4日(日)　会場:奥州市文化会館Zホール



「つながる・ひらく・再構築する作業療法 ～地域・技術・生活を結ぶ挑戦～」

学会長　**千田 恵介**
(社団医療法人啓愛会 老人保健施設ハイム・ベルク／奥州市)

胆江支部で担当を予定しておりました2020年度岩手県作業療法学会は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。それから6年を経て、胆江支部と両磐支部が合同で担当する岩手県作業療法学会を開催できますことを、大変喜ばしく思っております。

私たちを取り巻く環境には、少子高齢化や家族規模の縮小、人と人とのつながりの希薄化といった課題があります。これらは地域社会における喫緊の課題であり、どのように解決していくかが、これからますます重要になると考えております。

こうした思いをもとに、本学会のテーマを「つながる・ひらく・再構築する作業療法　～地域・技術・生活を結ぶ挑戦～」といたしました。人と人、地域と地域が「つながる」こと、新たな可能性に向けて扉を「ひらく」こと、そして自分自身やさまざまな資源・仕組みを「再構築する」ことの大切さを表現しております。そして、それらを地域・技術・生活という視点から結びつける役割を担うのが、作業療法であるという思いを込めました。

その一方で、作業療法を実践していくためには、まず地域を知ることが大前提であると考えています。そこで、身元保証サポート、生活安心サポート、ご逝去後のサポートなどに取り組まれている一般社団法人みらいテラスの千葉久美江様をお招きし、基調講演をお願いしました。一般公開講座として「地域のつながりを取り戻す　～独居高齢者支援の現場から見える課題と展望～」をご講演いただきます。高齢者の生活の実情や地域課題、行政・医療・介護の連携における課題、さらには作業療法士への期待や協働の可能性についてお話しいただく予定です。

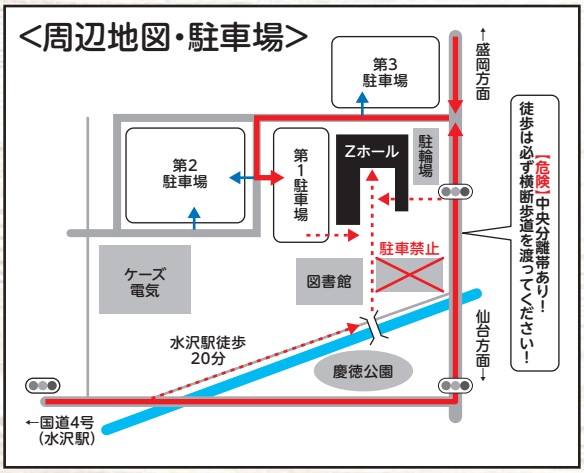
また、「つながる」「ひらく」作業療法の実践例として、岩手県eスポーツ協会に所属するフリーランスの楢木雄大様をお招きし、一般公開講座として体験型教育講演を開催いたします。テーマは「障がいの壁を越え、誰もがプレイヤーになれる　―アクセシビリティeスポーツ体験型講演―」です。機器の適合や環境調整によって、誰もがゲームを楽しめる工夫についてご紹介いただきます。また、参加者の皆様に実際にeスポーツを体験していただき、その様子を会場の大型スクリーンで共有する予定です。



さらに、「再構築する」作業療法の取り組みとして、一般公開企画として昼休憩時間に展示ブースを設け、岩手県パラアスリートによるトークセッション、装具の展示・体験、生活行為工夫の紹介を行います。パラアスリートの皆様には競技経験やパラスポーツの魅力についてお話しいただきます。また、装具を実際に装着して歩行を体験できるブースを設けるほか、岩手県作業療法士会生活行為工夫班より、生活行為を支えるさまざまな工夫やその手がかりをご紹介いたします。

一般演題には20題のエントリーをいただいております。日々の実践から得られた知見や工夫を共有し、多くの皆様との対話を通して、新たな気づきや学びが生まれる場となることを願っております。

2026年10月4日（日）、奥州市文化会館Zホールにて、多くの皆様にお会いできますことを心より楽しみにしております。本学会が、岩手県の作業療法の未来を共に考え、新たな一歩を踏み出す機会となることを願い、ご挨拶とさせていただきます。



県士会トピックス❸

作業療法フェスタ2026レポート

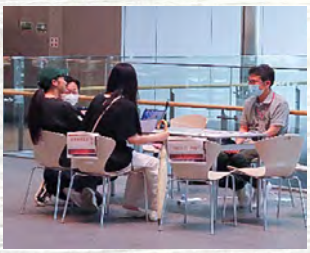


開催当日はあいにくの雨天となりましたが、来場者数は昨年を上回る38名となりました。会場での声かけに加え、ポスターやSNSを通じて作業療法フェスタを知った中学生・高校生、親子連れ、一般の方など、幅広い世代の皆さまにご来場いただきました。また、同会場でイベントを開催していた岩手盲ろう者友の会の皆さまにもお立ち寄りいただきました。

会場には、車椅子やボッチャ、意思伝達装置、福祉用具の体験コーナーに加え、作業体験や進路相談ができるコーナーが設けられ、来場者が作業療法を身近に感じられる内容となっていました。体験された方々からは、「楽しかった」「これまで知らなかったことを知ることができて良かった」「また参加したい」といった感想が聞かれ、作業療法に興味を持ち、進路相談コーナーを訪れる来場者の姿も見られました。















小林一樹事業局長をはじめ、運営に携わったスタッフからは、「作業療法を人に伝えるために何ができるのかを学ぶ機会となった」「知ってもらうことの大切さを改めて実感した」「来場者一人ひとりに作業療法の魅力を伝えることができたと思う」といった感想が寄せられました。また、大久保訓会長からは、「参加したスタッフの熱い思いが伝わってきた。これまで積み重ねてきた取り組みは、必ず次につながっていく。今回の体験をきっかけに、作業療法士を目指したいと思ってくれる人が増えてくれたらうれしい」とのお話がありました。

近年は、少子化や新型コロナウイルス感染症の影響による活動制限に加え、給与や業務負担（精神的・身体的負担）などのさまざまな要因から、新たな作業療法士の担い手の減少が課題となっています。そのような中で、今回のように実際に「見て・触れて・体験できる」イベントは、作業療法への理解を深め、その魅力を広く発信する貴重な機会であると感じました。今後もこのような取り組みを継続し、一人でも多くの方に「作業療法の魅力」を知っていただけることを期待しています。



報告者　広報局 情報処理部　佐藤 立





わたしの現場の工夫 ～明日から使える実践知～

県内の作業療法士が日々の臨床や地域活動で実践している「ちょっとした工夫」をご紹介します。
明日からの実践につながるヒントをお届けします。

FIMシートで「できるADL」を見える化！病棟スタッフとの情報共有の工夫

1.どんな場面での工夫ですか？

診療報酬改定でFIM実績指数がこれまで以上に重視されるようになり、FIMシートを導入しました。現在のFIM、目標FIM、病棟で実施してほしい内容を共有し、現在の能力や介助方法が分かるように工夫しました。

2.工夫したきっかけ・背景は何ですか？

リハビリで「できるADL」が病棟生活で十分に活かされず、介助量や対応方法がスタッフごとに異なることがありました。リハビリと病棟スタッフで共通認識を持ち、患者さんの能力を病棟生活へ反映させる方法があればと感じました。

3.工夫してみてどんな変化がありましたか？

患者さんの現在の能力が病棟スタッフへ伝わりやすくなったのではないかと思います。またリハビリで獲得した動作を病棟生活でも実践しやすくなり、スタッフ同士の情報共有もスムーズになったと感じます。

4.OTの仲間にメッセージ

多職種との連携がなかなか難しいと感じることもありますが、情報共有の方法を工夫することでも患者さんの自立支援につながると感じました。


FIM予測シート（病棟・リハビリ情報共有用）

FIM項目	入院時FIM	現状のFIM	目標FIM	コメント・介助ポイント
食事				
整容				
清拭				
更衣（上半身）				
更衣（下半身）				
トイレ動作				
排尿管理				
排便管理				
ベッド・椅子移乗				
トイレ移乗				
浴槽・シャワー移乗				
歩行・車椅子				
階段				
理解				
表出				
社会的交流				
問題解決				
記憶				
運動項目合計（/91）	/91	/91	/91	
認知項目合計（/35）	/35	/35	/35	
総合計（/126）	/126	/126	/126	

現在できていること
リハビリで練習していること
病棟でも実施してほしいこと
その他（今後の予定・退院に向けた課題など）

FIM点数：7（完全自立） 6（修正自立） 5（監視・準備） 4（最小介助） 3（中等度介助） 2（最大介助） 1（全介助）
※変更があれば随時更新し、チームで共有しましょう。

注：当院で利用しているシートとは若干異なります

ポイント
- 病棟スタッフが一目で理解できるシンプルな内容にする
- 患者さんの能力が変化したらその都度更新する
- 病棟で実践できる介助方法まで記載する

奥州病院　菊地 香織

My Favorite 3 ～わたしの3つの愛用品～



所属：北上済生会病院
経験年数 5年

松本 悠さん
（まつもと はるか）

仕事や趣味、思い出の品など、その人らしさが詰まった3つの愛用品をご紹介します。
モノを通して見えてくるOTの素顔をお楽しみください。

Favorite 1
仕事で欠かせないもの



「時計」

患者様と関わらせていただく上で、時間管理をするように意識にしています！

Favorite 2
休日や趣味で使うもの



「弓道の矢と弓がけ」

仕事終わりや休日に弓道仲間と一緒に楽しく頑張っています！

Favorite 3
思い出や大切にしているもの



「家で飼っている犬」

動物が大好きで、一緒にドライブに行ったり散歩をしてくれる大切な存在です。

2026年度入職の期待の星

令和7年から作業療法士として活躍しているフレッシュなスタッフたちをご紹介！

01

特別養護老人ホーム 百楽苑／岩泉町

畏野 和奏（ほろの わかな）さん



4月より、社会福祉法人恩賜財団済生会特別養護老人ホーム百楽苑にて機能訓練指導員として勤務しております、畏野 和奏です。

百楽苑は、岩泉町唯一の特別養護老人ホームです。利用者様一人ひとりが、慣れ親しんだ地域でその人らしい生活を最期まで送ることができるよう、作業療法士として自分に何ができるのかを常に考えながら、日々の業務に取り組んでいます。職場には作業療法士の先輩がおらず、新卒として試行錯誤の毎日ですが、その環境を成長の機会と捉え、研修会や学会へ積極的に参加し、知識や技術の習得に努めながら自己研鑽を続けていきたいと考えています。

持ち前の明るさと笑顔を大切にし、利用者様や職員の皆様とのコミュニケーションを大切にしながら、信頼される作業療法士を目指して精一杯努力してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

02

岩手県立胆沢病院／奥州市

熊谷 菜々子（くまがい ななこ）さん



4月から岩手県立胆沢病院へ入職し、4ヶ月が経過しました。さまざまな疾患を持つ患者様へ介入する経験をさせていただき、幅広い知識や急性期のリスク管理、柔軟な対応力の必要さ、また、リハビリ介入だけでない日々の業務の大変さを実感しております。まだまだ至らないところが多いですが、先輩方に支えていただき、日々学んでいます。

作業療法士は、疾患や障害だけでなく、生活や価値観にも目を向け、その人らしさを支援できるところが魅力だと考えております。今後も、ひとりひとりの想いに寄り添った作業療法を提供できるようさらに研鑽を積んでいきたいと思います。

広報局からのお知らせ

公式「LINE」はじまってます

最新の学会情報・イベント案内を配信中。
ぜひ友だち追加をお願いします。





@222myhee

岩手県作業療法士会 を検索！

原稿執筆ご協力のお願い

今号より「私の現場の工夫」「My Favorite 3」「いわてOT図鑑」などの記事掲載をスタートさせました！もし機関誌企画部員より依頼があった際は是非ご協力いただけると幸いです。

SNSもチェック！

岩手県作業療法士会の
最新情報をSNSで発信中！

Instagram

@iwate_ot

いわてOT図鑑

～岩手で活躍するOTを紹介します～

岩手で活躍する作業療法士をリレー形式で紹介します。
仕事への想いや人柄、地域での取り組みを通して、県内OTの新たな魅力を発信します。

近藤 理智生

北上済生会病院／北上市（経験年数17年目）



●大切にしているOTの価値観

『その人の為人を知る。』を大切にしています。私の中で、作業療法の本質ではないかと考えています。病院のリハビリ室での練習や自宅退院も大事な関わりや目標ではありますが、担当している患者さんが退院した後に実際にどんな生活をされているか？その人にとって大事なこだわりやルーティンは千差万別だと思います。そこを突き詰められるかは他のリハビリ職種ではない私達作業療法士の強みだと思います。

●今後の目標

昨年度は岩手県作業療法学会の実行委員長として、大会を盛り上げるべく裏方の仕事をさせて頂きました。今年度から新しく県士会のICT班に所属し、意思伝達装置の導入のサポートをさせて頂くことになりました。7年間お付き合いしたALSの患者さんに初めて意思伝達装置を導入した時は『こんな機械があるんだ。へ～。』ぐらいでした。ALSの患者さんを対応させて頂き、指伝話、伝の心、TCスキャンと様々な機器を扱わせて頂きました。そこでの経験を活かして、今度は県内のOT並びに患者さんや利用者さんへ還元していきたいと考えています。

●岩手でOTとして働く魅力

10年前は埼玉県の病院で働いておりました。東京、千葉の県境の地域で働いていました。岩手県はとてもご近所付き合いや部落の繋がりを大切にしている方が多いと感じます。それは地域ケアマネさんや訪問リハさん等も地域貢献や伴走型の支援を意識して仕事されている方が多いように感じます。そんな方々に感化されて私も地域に根ざした関わりに魅力を感じています。

●最近の関心事

10歳、7歳、5歳、3歳の4児の父親をしています。4人の子どもの行事や習い事の追っかけをすることがマイブームです。時には子ども達の動きを見ながら動作分析をして、指導したり一緒に身体を動かしたりしています。こんなところでもOTとしての知識・技術が役に立っています。



普段の業務等でお忙しい中、原稿を作成・提供してくださり、本当にありがとうございます。この機関誌は会員並びに士会に関わってくださる方々に支えられて成り立っております。今後とも記事の提供にご理解ご協力を頂けるよう広報局員一同、丁寧に対応させて頂きます。

岩手県作業療法士会ニュース「不来方」　年3回発行

発　行　所　一般社団法人岩手県作業療法士会
発　行　人　大久保訓
編　集　人　佐々木圭秀
機関誌編集担当　藤田淳／金野慶太／倉成ハルヱ／和田いつか／菊地香織／川向悠太

デザイン・印刷　株式会社日高見

一般社団法人 岩手県作業療法士会
http://iwate-ot.or.jp/